

二三〇一番

よしゑやし 恋こひじとすれど 秋風あきかせの 寒さむく吹ふく  
夜よは 君きみをしそ思おもふ

二三〇二番

ある人ひとの あな心こころなと 思おもふらむ 秋あきの長夜ながよを  
寢覚ねさめ伏ふすのみ

二三〇三番

秋あきの夜よを 長ながしと言いへど 積つもりにし 恋こひを尽つく  
せば 短みじかかりけり

二三〇四番

秋あきつ葉はに にほへる衣ころも 我われは着きじ 君きみに奉まつらば  
夜よるも着きるがね